

FMU 男女共同参画通信

第6号 September 2015

福島県立医科大学 男女共同参画支援室

秋と言えば「〇〇の秋」という言葉があります。食欲の秋・行楽の秋・読書の秋、楽しい秋です。ぜひお一人おひとりの秋を満喫してください。本支援室でも、秋から冬にかけて様々なイベントを開催いたします。

今回のレターでは、6月～8月に行ったイベントの活動報告をはじめ、本支援室で行っております研究支援について、支援を受けられている教職員の方々にお話をお伺いしました。

10月は、男女共同参画推進月間です！

「男女共同参画行動計画」の取組の一環として、4月と10月を「男女共同参画推進月間」とし、男女共同参画の意識の浸透をはかるような取組を集中的に行うことにしました。

具体的な取組の一つとして、各講座において「男女共同参画マニュアル」を用いて所属内で研修会を開催いただき、「チェックシート」を用いて一人一人自己点検を実施して頂くなどして、男女共同参画の理解を深めていただきます。

皆様、ご協力をお願い致します。

FMUキャリアサポート交流会を開催しました

6月25日(木)に、学生を交えての交流会「FMUキャリアサポート交流会～未来の“私”を考えよう～」を開催いたしました。講師に、本学附属病院5階東病棟 阿部こずえ氏と秋田大学より医学部総合地域医療推進学講座准教授 蓮沼直子先生を招聘し、ご講演いただきました。

お二人には、育児と仕事の両立、私生活の様々な様子などをお話いただきました。

参加者からは、「具体的な自分の行動変化につながる内容でした」「自分のやりたいこと、実現する気がしてきました」などの声が寄せられました。御講演終了後には、交流会も開催され、学生を交えて親睦を深めました。



FMUスキルアップセミナー Scopus・Mendeley 講習会を開催しました

研究技能向上のための講習会として、7月7日(火)に「Scopus・Mendeley 講習会」を開催いたしました。

医学論文や各種報告書の作成のためには、適切な情報収集・活用が不可欠です。本セミナーの開催により、論文執筆の際の有効な情報検索方法を学び、実践的な活用法を習得しました。多くの方々に参加していただき、大変有用な講習会になりました。



6月・7月にイングリッシュカフェ、8月にキャリアカフェを開催しました

毎月、交流の場として「FMUカフェ」を開催しております。

6月と7月には、情報交換をしつつ英語力を身に付ける『イングリッシュカフェ』を開催しました。

6月は健康リスクコミュニケーション学講座准教授 村上道夫先生に、7月にはマウントサイナイ医科大学とロンドン大学の交換留学生の方々にご発表をいただきました。英語力も上達し、同時に意見交換もでき参加者からはご好評いただいております。

8月には、男女共同参画について自由に話し合う「キャリアカフェ」を開催し、本学麻醉科学講座講師 佐藤薫先生に「男女共同参画～家庭の責任誰が取る?～」についてお話をさせていただきました。参加者の方々はお互いのライフイベントについて語り合い、とても充実したカフェになりました。



インフォメーション

意識改革研修／全員参加型FD講習会 男女共同参画講演会

日時■10月9日(金) 17:30～19:00

場所■11号館 第2臨床講義室

講師■伊東 昌子 氏

(長崎大学副学長／ダイバシティー推進センター長・教授)

長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンター長・教授)

橋本 美穂 氏

(日本看護協会 労働政策部長)

FMUキャリアカフェ

日時■10月20日(火)
16:30～17:30

場所■4号館4階
第2ゼミナール室

テーマ■「男女共同参画
現状と今後を語ろう①」

交流の場をお探しの方、小さな提案や要望、
お困りごとなど話してみませんか？

FMUキャリアサポート交流会 ～未来の“私”を考えよう～

日時■11月2日(月)
16:30～18:30

場所■8号館 1階 S101

講師■木村 純子 先生
(本学医学部薬理学講座 教授)

大川 貴子 先生

(本学看護学部

家族看護学部門 准教授)

本支援室では、ライフイベント（出産・育児・介護・看病等）を抱えた教職員の研究支援を行っております。今回は、支援を受けられている教職員の方々にお話を伺いました。

研究支援ありがとうございます。

循環器・血液内科学講座 助教 七島 晶子 先生



前年度に引き続き、今年度も男女共同参画室から研究支援を頂いております。誠にありがとうございます。私の学位取得時の研究テーマは、発作性夜間ヘモグロビン尿症でしたが、その後少しずつテーマを広げて、現在は骨髄不全症候群（再生不良性貧血・骨髄異形成症候群・発作性夜間ヘモグロビン尿症）、さらに骨髄増殖性腫瘍につきましても研究させていただいております。

学位取得後から現在まで、ふたりの子供の妊娠・出産・育児を経験いたしました（育児については現在進行中）。この間、一年と少しの育児休暇期間をのぞき、臨床と研究の両者を止めずになんとか進めることができましたのは、指導教官、同僚の先生方、医局のスタッフはもちろん、男女共同参画室の方々、そして支援員の方々のおかげです。

臨床業務は患者様の病状によって予期せぬ時に手が離せなくなることがあります。子育ても然り、子供の突然の病気や学校行事によって予定を急に変更せざるを得ないことが多々あります。そんな日常のくりかえしの中、決まった曜日の決まった時間にいらっやっや、黙々と業務をこなしていただける支援員の方は、救世主のような存在です。進めていただいた業務をペースメーカーに、ゆっくりとですが、今後も研究を続けていきたいと考えています。

「神」な研究支援員さん

会津医療センター漢方医学講座 准教授 鈴木 雅雄 先生



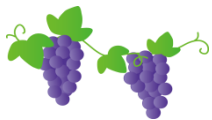
この度、男女共同参画支援プロジェクトにより研究支援員を配属して頂きました。心より感謝を申し上げます。

私には研究支援員を応募した理由がありまして、全く研究が進まない現状のなかもがき苦しんでいました。それは、幸運な出来事から始まりますが、2年連続で科研費が2件採択されて、浮かれながらも研究するぞ！と意気込んでいたのですが、実際には日々の臨床・教育業務が押し掛かるなか、子供が1歳と手が掛かる上に父も前立腺がんを患ってしまい、週末には実家を往復する生活を余儀なくされてしまいました。当てにしていた土日も潰れていき、頭の中はいつも「データ整理どうしよう・・・」、「論文書かないと・・・」、「実験どうしよう・・・」など何をしていてもこんな事で埋め尽くされていましたが、実際には作業が進まず、悪循環に陥ってしまいました。このような状況のなか、研究支援員の応募があり、これは～という思いで、応募をさせて頂きました。

実際、支援員の方が決まり業務が開始するとこれまで溜まっていたデータ整理が進んで行きまして、そうなるとう頭の整理が出来るようになり、現在は論文を2~3件同時に進めることが出来ています。今は、支援員の方を秘かに「神」と呼んでいます。本当に助かっております。

被支援者の立場から：研究支援員の配置を受けて

医療人育成・支援センター 助教 高野 真澄 先生



現在私は男女共同参画室の事業のひとつとして行われている、研究支援員の配置をいただいております。これは出産・育児・介護等により研究時間の確保が困難な教員を対象として、研究とライフイベントの両立を支援するために行われているものです。

私には小学1年生になった息子がおります。子供を持つ前の生活では、臨床に従事しながらも、研究に費やせる時間を捻出することができました。しかしながら、出産後は育児のため物理的に研究時間の確保が難しくなり、さらには子供の急な病気などでなかなか研究がはかどらずにありました。そのような中、男女共同参画室の前身であるキャリアラボ、そして男女共同参画室から研究支援員の配置を頂きました。研究支援員の方にデータベース作成やデータ入力などをお願いすることによって、私自身は結果の検討や論文作成に集中することができております。

年1回の成果発表会では、他分野の被支援者の先生方との交流により、研究のアイディアが出てくることもあります。さらに、このような支援をいただくことにより、研究に対するモチベーションの向上にもつながっているように感じており、心より感謝申し上げます。

福島県立医科大学では、個人として尊重され、性別に関わらず、多様な価値観を認め合い、持てる個性と能力を最大限発揮できる環境を築き、仕事と生活の調和を実現することを目指しています。

福島県立医科大学 男女共同参画支援室

【連絡先】 E-mail : gendeqsp@fmu.ac.jp / Tel : 024-547-1657 / 内線 : 2807

HP : <http://www.fmu.ac.jp/home/gendeqsp/>

男女共同参画支援室長 小宮 ひろみ

コーディネーター 氏家 智亜紀